

県立広島病院の生化学・免疫分析装置並びに検体搬送システムの更新 公募型プロポーザル提案書評価基準

大項目	評価基準・審査の観点	配点
1. 生化学・免疫装置及び搬送システムの技術・品質に関する項目		50
	1) 機器の性能に関する評価 ①性能の定量評価（測定時間（TAT）、処理能力、同時測定可能項目数、消費電力、水消費量L/h（最大時・定常時）） ②省人化への貢献度 （装置の集約、台数削減、自動化、タスクシフト等により現状の検査業務において、何人相当の人的リソースを省力化できるか（例えば生理検査への配置が可能など）） 2) 現病院に対する設備投資内容が適正であり、新病院開設が遅れた場合でも問題が発生しないか 3) 新病院に対する設備投資 ①新病院開設後、令和7年度実績の1.6倍以上の検体処理が可能か ②新病院移転時に追加の検査機器を導入する場合、フレキシブルに自動化ラインと接続可能か 4) 緊急検査対応で利便性向上のアピールポイントがあるか	
2. コストに関する項目		40
	1) 令和9年度から10年間のトータルコスト ①機器リース費用、保守費用（24時間365日対応、部品代・修理代込/別途の価格）、新病院への移設費用 ②検査試薬費用の安定性 （検査試薬ごとの10年間の単価契約を前提とするが、年間総試薬費用を年間総検体数で割った値（「検査コストインデックス」という）が本プロポーザルの見積もりの前提（※）から5%以上変動した場合、単価の見直しによる調整に応じることができるか） ③新病院開設が遅れた場合、追加コストが発生するか（毎年のリース料、保守費は不変か） 2) 生化学・免疫検査臨床環境変化（技術進歩に伴う検査項目・方法の変更など）への柔軟な対応が可能か	
3. サポート体制に関する項目		5
	1) 故障時対応が充実しているか（問合窓口の1本化、24時間オンコール、リモートサポートの有無、代替機等） 2) ISO15189の維持、更新に向けた支援（設置した機器が内部精度管理基準を満たすデータを提供できない場合は機器交換が可能か）	
4. 危機管理・災害時への対応（卸業者の対応含む）		5
	1) 停電、断水時の復旧についてアピールポイントがあるか（機器、システムを含む） 2) 検査試薬、消耗品の備蓄と供給ルートの確保がなされているか（災害対応、地政学リスク対応）	
計		100点満点
		100

（選定委員の評価点の平均が6割（60点）に満たない者は、事業予定者として選定しない。）

※本プロポーザルの見積もりの前提とは、令和7年度の年間総検体数（仕様書別紙のとおり）とそれに対して自社が見積もった年間総試薬費用のこと。